# 平成29·30年度

# 鹿児島市教育委員会研究協力校「外国語活動」

研 究 主 題

他者との関わりを大切にし、 豊かにコミュニケーションを図ろうとする 児童の育成を目指して









日 程

13	:25 13	40	14	4:05 14	:15 15	00 15	:15 15	:55 16:	10 16:	20	16:4	10
		全体会 I			公開授業		分科会			全体会	全体会Ⅱ	
				移	3年	移			移			
		開	研	動	What's this?	動	授	指	動	指	閉	
	受	会	究	•		•	業	導	•	導	会	
	付	行	発	準	5年	準	研	助	準	講	行	
		事	表	備	Where is the	備	究	言	備	話	事	
					treasure?							
		10分	15分	10分	45 分	15分	40 分	15分	10分	15 分	5分	

平成31年2月15日(金)

鹿児島市立平川小学校

### I 主題について

1 主題設定の理由

### 社会の要請

- 外国語によるコミュニ ケーション能力の必要性 が高まる社会構造の変化
- 主体的にコミュニケー ションを図る大切さを知 る重要性
- 相手に配慮し、場面や状況に応じて話す内容を考え、自分の思いや考えを伝える表現の工夫

### 児童の実態

- コミュニケーション能 力不足
- 他者と触れ合う経験の 不足や話し合おうとする 気持ちの欠如
- 相手の気持ちや立場への配慮不足
- 自己肯定感の不足
- 固定化した人間関係
- 英語で話してみたいと いう願い

### 教師の実態・願い

- 外国語指導の経験がない(50%)
  - (高学年担任の経験不足)
- 外国語指導への不安 (62.5%)
- 共通した指導過程や共 通理解の必要性
- 積極的につながり合 い,尊重し合う児童の育 成

2 研究主題

他者との関わりを大切にし, 豊かにコミュニケーションを図ろうとする児童の育成

3 他者との関わりを大切にし、豊かにコミュニケーションを図るとは

まわりの人と気持ちや思い・考えを伝え合う喜びを感じながら、慣れ親しんだ英語の表現や身振り 手振り、顔の表情、視線などの非言語メッセージを駆使しながら、友達や様々な人に自分から話しか けたり、相手の反応を聞きそこに自分の考えや思いをのせたりして会話をつなぐことである。

4 研究仮説

英語に親しみ、楽しむ環境と場を整えるとともに、相手意識をもって主体的に伝え合い、達成感を味わえる授業を行えば、豊かにコミュニケーションを図る児童を育成することができるのではないか。

5 研究内容

### 場の設定

# 相手意識をもって主体的に伝え合い、達成感を味わえる授業

- ENGLISH DAY
- 音楽集会(英語の歌)
- 全校外国語活動
  - ・ハロウィーン
  - ・クリスマス
  - 買い物ごっこ
- 読書週間(読み聞かせ)
- 外国人との積極 的な交流

### 単元として構成

児童が主体的に学習に取り組むための バックワードデザインによる単元構成

### 基本的な学習過程

慣れ親しむことから 相手意識をもった 伝え合いへつなぐ 一単位時間の工夫

### 意欲を高める評価

児童が見通しをもち 意欲的な伝え合い を積み重ねることを 促す評価の工夫

### 環境の充実

### 視覚的環境

- 活動の様子の掲示 (外国語コーナー)
- 基本的語彙や歌の 掲示(階段・玄関・教室)
- クラスルームイン グリッシュの活用

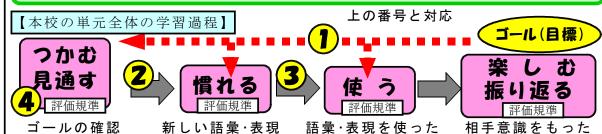
# 聴覚的環境

- 英語での校内放送
- 発音コーナーの設置

英語に親しみ、楽しむ場や環境づくり

#### 研究の実際 Π

- 児童が主体的に学習に取り組むためのバックワードデザインによる単元構成
  - ゴール (本単元で目指す児童の姿) を明確にし、ゴールから逆算して1時間ごと の目標を決め、活動を組み立てながら単元を構成し、児童の主体的な学習を促す。
    - ゴール(目標)の設定
      - 単元を通して、児童にどのような力を身に付けさせたいのかを考え、目 標を設定する。ゴールでの伝え合う活動は、児童の意欲を高め、必要感を 感じられるように、単元初めのゴール提示の仕方を工夫し、児童と共有する。
    - ゴールに必要な新しい語彙や表現の洗い出しと慣れ親しむ活動の工夫 ゴールでの伝え合う活動で必要な語彙や表現を明確にし、単元前半で児童が それを聞き慣れたり、言い慣れたりする活動を設定し、その内容を工夫する。
    - ゴールで児童の思い・考えを表現できる活動の工夫 単元後半(ゴール前)においては、それまでに慣れ親しんだ語彙や表現を活
      - 用して伝え合うための計画・練習の活動を位置付ける。その活動は、ゴール で相手意識をもち,自分の思いや考えを表現できるように内容を工夫する。
    - 4 単位時間ごとの評価規準の設定と評価方法の工夫
      - 単位時間ごとに設定した活動を基に、具体的な評価規準を設定し、それを 評価する場面や方法を工夫する。



学習計画の作成

への慣れ親しみ

伝え合いの計画・練習

教

師

伝え合いの活動

慣れ親しむことから相手意識をもった伝え合いへつなぐ一単位時間の活動の工夫 一単位時間の基本的な流れを踏まえ、児童が単元のゴールに必要な語彙や表現に慣 れ親しみ、それを友達との伝え合いで相手意識をもって使い、楽しむことができるよ うな手立てを工夫する。

【本校の1単位時間の基本的な学習過程】 ※CP:コミュニケーションポイント

始まりの挨拶や日付、曜日、天気 などを確認し、教師と学習の雰囲気 をつくる。

前時までに親しんだ語彙や表現を□○ 高学年では、自分のことを交え 使って、復習する。

る

か

む

中学年」身体表現を伴う歌・チャンツ 必要な表現を使ったやりとり

(Small Talk)

前時までに学習したことを振り返□○ 学習計画表や振り返りカードを り,本時のめあてや学習することを つかむ。

- 教師自身が、CPの「Smile」 や「Clear Voice」を心掛け、学習 の雰囲気づくりを行う。
- たやりとりをさせることで、考え る力を高められるようにする。
- Classroom English を使った反応 ができるように助言する。
- 活用し、児童が本時の学習に意欲 をもち、自分なりのめあてをつか むことができるようにする。

見 通 व

を見て,本時のゴールでどんな活動 をするのかを見通す。

教師やAEA等のモデルスキット ○ 前時までの学習を基に、スキット を見せたり、表現のやり取りを行っ ている写真を提示したりすること で、本時で慣れ親しむ内容ややり取 りの手順を把握しやすいようにする。

# 慣知 1 るる

⑤ 取り上げる内容や場面を確認し, どんな語彙や表現が必要かを知り, 聞き慣れる活動を行う。さらに、言 い慣れる活動を行い、十分慣れ親し む。

- 教師・AEAと児童とのやり 取りやペア・グループによる活動 等,多様な学習形態を工夫する。
- ICTの活用やゲーム等を通し て, インプットからアウトプット へつなぐ活動を積み重ねる。

# 楽使 L むう

- ⑥ 慣れ親しんだ語彙や表現を自分の 言葉として使い、単元のゴールに必 要な伝え合う活動を友達と楽しむ。
- 五つのCPを意識して伝え合 うことができるように助言する。
  - ・ 相手が分かりやすい表現の工夫 相手の話へ反応を返すやりとり

- 返振 るり
- ⑦ 振り返りカードの「今日の自分」 「友達のよさ」を記入・発表し、自 分や友達の取組を振り返る。
- 机間指導で児童の自己評価・ 相互評価を確認し、称賛したり、 振り返りカードの記述の指導を 行う。

### 3 児童が見通しをもち、意欲的な伝え合いを積み重ねることを促す評価の工夫

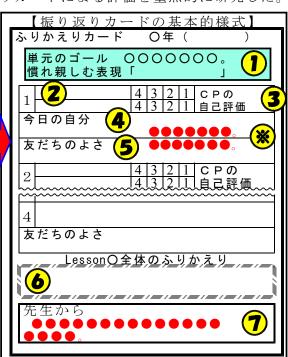
単位時間ごとの評価規準は、児童の側からは、めあてとして捉えさせることで、 見通しをもって意欲的に学習に取り組むことができる。そして、授業の最後で自分と 友達の学びを振り返らせることで、次時への意欲を喚起したり、新たな自分の目標を 設定したりすることにつながると考え、振り返りカードによる評価を重点的に研究した。

### 【振り返りカードの様式の説明】

- ① ゴールとその活動に必要な慣れ親しむ 表現の内容を書く。
- ② 単位時間毎の評価規準に照らし, 自己 評価項目を設定する。
- ③ コミュニケーションポイントで心掛け たことを自己評価させる。
- ④ 自分の学びを振り返り、記述させる。
- ⑤ 友達のよさを記述させる。
- ⑥ 単元全体を振り返り、記述させる。
- ⑦ 単元全体の教師の評価を記述する。
  - ※毎時間の教師のコメントを記述する。

振り返りカードによる児童の自己評価・相 互評価と併せて, 教師による児童の行動や 発表の観察による評価, 児童のワークシー トや作品の点検による評価も行った。

これらの評価で,次時以降に,児童一人 一人の学習の状況に合わせた個別指導・助言 ができるとともに、児童の慣れ親しみや伝 え合いが円滑になるように指導計画を調整 することが可能となる。



振り返りカードは,授業の初め に配布することで,前時までの学 習の様子や本時での各自のめあて を確認させる。

#### 4 実践例

(1) 単元構成

4年生 This is my favorite place.(全4時間)

**単元ゴール**:学校の中の好きな場所を紹介し合い, お気に入りマップを作ろう。

つ か む) 見 涌 ォー第1時 ゴール場面の共有・学習計画の作成

スキットを見て、「友達にお気に入りの場所を伝えたい!」「みんなでお気に入りマップを作りたい!」という意欲をもつ。教師と一緒に話し合いながら学習計画を作成する。

慣れる 第2時 必要な語彙や表現への慣れ親しみ

「教室名」「教科名」「道案内」の語彙・表現を十分に言い慣れるように、 ゴールを意識したゲームやチャンツで練習する。

使う 第3時 場所・理由の決定、伝わる工夫についての話合い 伝えたいお気に入りの場所やその理由をじっくり考える。相手意識を より高めるため、相手に分かりやすく伝わる工夫をグループで話し合う。

楽しむ 振り返る 第4時 お気に入りの場所の相互紹介、お気に入りマップ完成 相手意識をもち、お気に入りの場所・理由を紹介し合い、お気に入り マップを完成する。単元全体の振り返りを行い、達成感を味わう。

(2) 一単位時間の活動の工夫

5H Cloudy Thursday





気分,曜日,月日,天気を尋ねた後,身体表現を伴う歌やチャンツで学習の雰囲気をつくる。高学年はスモールトークを行う。

見つ 通か すむ







教師とAEA・ALTとのスキットを見せて、本時のめあてについて見通しをもたせる。本時の学習内容や方法について確認させる。

慣知 れ るる







ピクチャーカードやリズムボックスを活用してチャンツを行う。ペア・グループで、ポインティングゲームやキーワードゲーム、ミッシングゲーム等で、インプットからアウトプットへ段階的につなぐ活動にする。

楽しむう



CPやクラスルームイングリッシュを意識させ、友達や先生とのやり取りを楽しませる。机間指導をしながら、特に気を付けてほしいCPについて活動の途中で指導助言したり、称賛したりする。

振り返る







振り返りカードの記述を確認し, 個に応じた称賛・助言を与えながら意図的な指名につなぐ。自分の 成長や友達のよさを確かめ合いな がら本時の学習への満足感を味 わわせるとともに, 次時への意欲 をもたせる。

### (3) 評価の実際

**新学習指導要領の目標を加味した内容** 評価規準の作成 ※ 新学<mark>習指導要領の目標を加味した内容</mark> ○相手に配慮しながら,自分が気に入っている校内の場所を進んで<u>伝え合おう</u>とする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 ○「教室」「教科」の言い方や自分のお気に入りの場所を伝える表現に慣れ親しむ。 国語への慣れ親語や文化に関する気 ○世界と日本の学校生活の共通点や違いに気付く

外国語活動 ふりかえりカード Lesson 8 4年 ( This is my favorite place.お気に入りの場所をしょうかいよう。 校内の好きな場所をしょうかいし合い、お気に入りマップを作ろう! なれ親しむ表現:「教室などの名前」「道案内のしかた」 たんげんのゴールやゴールまでにどんな )えがお (smile 4 習をするかが分かりましたか。

割をするかが分かりましたか。
事をなどの名前」「道案内」の言い がはっきりとした発音(clear voice) )目を見て(eye contact) 進んで練習することができましたか )動きをつけて (gesture) (の)反のうする (response) 今日の自分 ちたしは、もなけもが左むけ左が莨詰をごどう言うの 友だちのよさ アケ まての形を動かすこ 先生のお気 ぜひ フきしょ チャレンジ 「日本の学校」「外国の学校」 ところやちがいが分かりました (o) えがお (smile) ))えがお(smile) )はっきりとした発音(clear voice) )目を見て(eye contact) )動きをつけて(goeture) 3 2 ころやちがいが分かりましたか。 「教室などの名前」「道案内」の言い方 「お気に入り」の表し方なれてきましたか。 )動きをつけて (gesture) 次江山 )反のうする (response) 今日の自分 わたしは、素な真真先生でようこ先生といっしょにコマを動かせる楽しから ン欠は@towalata マアの人としたいです。(10001.1 IDEO 友だちのよさ さ 今日は、 さんか 先生のち気をひの方をまで ① 一道案内の仕方」を考え、 すきな理由を答 ()はっきりとした発音 (clear voice) えがお (smile) 3 2 ( )目を見て (eye contact) テ日の自分 テロの自分 デモエリたくてんできるよう(したってうればった。そ日はスキットが チェフれにかった。テムゲックしてたけど たまのよさ みんたはつきがドムキャ 2 先生のお気に入りの場所が知 友だちのよさ みんたはつ意が上手たった。みんたすすんで英語をはっおんしてい た。 ② 当たみん た 上手 ご すご かった。する い 「道案内」「理由」 を相手に分かるように | 4 | ③ | 2 ことがもいました。NI(8) )えがお(smile) )はっきりとした発音(Clear voice) 」 「坦米円」「空中」 で用すにカル もの / 伝え合いましたか。 ) すすんでゴールの活動に取り組み, 楽しさ 4 3 )目を見て (eye contact) 1人めい を感じられましたか。 動きをつけて (gesture) )及のうする (response) 友だちのようのみとしれずマップにはなる気はなられるためはなる うだすきかかいかなったたけったしかとかっともと Lesson 8全体のふりかえり 一ルまでは馬いた、と思ったけどゴールできてうれしかった。このたんげんは とうなで使えるからしれませんね。みんなおもしるかったです。1-4までながかりたけがするにつれて、上手になったと思います。とことたのしかったです。 この単元がしまじまってから、 さんがおを建と習った言葉を 1遊んだり、梨々ペンを使って練習したり する ようすをたくさん

最後のゴールの時間には、児童に単元全体の振り返りを させ,ねらいに向けて積極的な学びをしたか,達成感を味 わえたかなどを見取る。

ふとがてきました。ゴールに向かって よくがんばりました。Good

- 「みんなのシールがマップに貼れて,気持ちよかった。」
- ○「最初は自信なかったけれど、最後は元気に言えた。」 ○「この学習はいろんなところで使えるかもしれない。」
- ○「練習していくにつれて上手になってよかった。これ
  - からも友達と楽しく英語を学んでいきたい。」 「上手に言える自信がもてたのでうれしかった。」

(1) 児童が本単元のゴールと慣れ親しむ語 彙や表現を常に意識できるようにする。

- 評価規準に照らし、二つ程度に絞った 評価の観点で4段階で自己評価させる。「今 日の自分」の記述と併せて児童一人一人 の学習状況を捉え、次時の指導改善に生
  - ○第2時の「道案内の言い方やお気にノ りの表し方への慣れ」の自己評価3の 児童が3人いた。→ 慣れ親しみの活動 をもう少し取り入れる必要性がある。 ○「校長室、保健室、家庭科室も上手に
    - 言いたい。」
  - ○「道案内の言い方に慣れてきたけど、 お気に入りの言い方は難しかった。」



ゴールのスキットを 写真で具体的に提示 必要な語彙・表現の 聞き慣れ・言い慣れ

- 「友達のよさ」の欄に,友達の頑張り や工夫を記述させ、そのよさを自分の学 びに生かしたり、学び合いを進んで行っ たりすることができるようにする。
  - ○「○○さんがしっかり発音していたの で、まねしたい。」 ○「最後まで聞き取りやすいように話し
  - ていてよかった。」
  - ○「ぼくが分からないところを教えてく れて、ありがとう。まねしたいな。」
- コミュニケーション ポイントについては 特に心掛けたものに〇 <u>を付けさせる。教師の</u> <u>行動観察</u>(主に単元後 <u>半)と併</u>せて,児童の よさを捉えていく。



相手に分かりやすい表現にするため 工夫ができたかを自己評価させるとと ワークシートの点検と併せて, 相手に配慮した伝え合いをしようとし <mark>ているかを見取る。</mark>

★相手に伝わる工夫★

できなまで言う。 ゆっくりはっきりかう。

といかり聞く 人友達の目を見る。) きかと重力く。(友達の話となく関く)

### 5 場と環境

(1) 場の設定

【ENGLISH DAY】毎週木曜日は、全員英語で挨拶









【全校外国語活動】

全校ハロウィーン





【外国人との積極的な交流】

全学年 ALT と交流 シンガポールと交流





(2) 環境の充実

ア 視覚的環境

### 【活動の様子の掲示】







各学年の単元ごとの活動や全校外国語活動の様子を共通掲示板に掲示

【基本的な語彙や歌の掲示】

挨拶での共通の語彙









教室で担任が確認するためのカード

【クラスルームイングリッシュ】



使いたい表現を全教室に掲示

共通の語彙を玄関に掲示

### 【英語での校内放送】

イ 聴覚的環境



日本語と英語による放送

### 【発音コーナー (らくらくペン)】



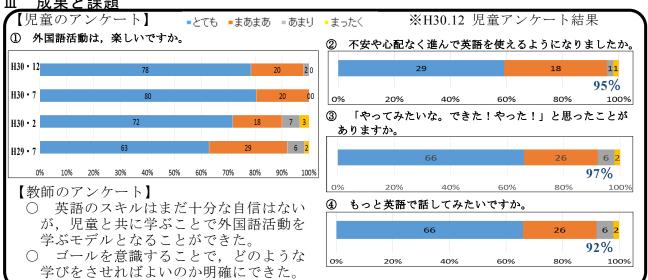
曜日等を階段に掲示 音楽集会での歌の教室掲示





自由に正しい発音を聞いたり発音したりすることのできるコーナ

### Ⅲ 成果と課題



### 研究の成果

### 【児童】

- 単元の最終ゴールを示し、教師と共に立てた学習計画を基に学習を進めることで、見通 しをもって主体的に活動し、達成感・満足感を味わっている姿が見られるようになった。
- 五つのコミュニケーションポイントを,常にやり取りの中で意識させたことにより,「笑 顔」、「はっきりと発音する」、「相手の目を見て話す」ことについて意識して会話する 姿が見られるようになった。
- 振り返りカードで自己評価,他者評価を行わせることで,自分や友達のよさを共有し, 自己肯定感をもち、自信をもって他者と触れ合う姿が見られるようになった。また、ゴー ルに向かって積極的に自分の学びにつなごうとする意欲をもつことができた。
- 毎週木曜日のイングリッシュデーや全校外国語活動では、学習した表現を使いながら、 他の学年の児童や教師と進んで関わり合い、英語でのやり取りを楽しもうとする姿が全学 年で見られた。校内の外国語に関する設営に関心をもち、友達と歌ったり会話したりする 姿が見られるようになった。

#### 【教師】

- 低・中・高の発達段階・実態を踏まえ、単元の目標や指導の重点を明確にした授業づく りを行うことで、教師自身が授業に積極的に臨めるようになった。
- どの単元でもゴールを明確にした単元づくりをすることで、児童の達成感や満足感が高 まることを目指し、どのような活動を取り入れればよいのかを考えた授業づくりができた。
- 全校態勢で授業づくりをしたり,共通実践をしたりすることで,外国語活動の指導に自 信をもって取り組むことができるようになった。
- 単元の目標と一単位時間の評価規準や重点を明確にして振り返りカードを作成すること で、児童の姿を焦点化して見取ることができた。また、振り返りカードを点検・分析する ことで一人一人の学習状況を把握し,児童のよさや課題を把握できるようになり,授業改 善にも生かすことができた。

### 研究の課題

- 児童の意欲を高め、達成感・満足感を一層味わわせることができるゴールとなるように 実態に合わせた設定をしていきたい。
- 「学習計画を立てる」「考えや気持ちを発表すること」への喜び・意欲に課題が見られ るため, 指導の手立てを考えていく必要がある。
- コミュニケーションポイントにおいては、動きを付けて表現することや相手の話すこと を最後までしっかりと聞き,反応することに意識して取り組ませていく必要がある。
- 「自己評価」や「他者評価」を学級の児童全体で共有し、それぞれの学びに生かせるよ うにしていく必要がある。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした研究を進めていく必要がある。